



ういぼう



2017.7発行

こんにちは。能登川病院内科医の森村と申します。このたび発足いたしました認知症ケアチームの委員長を務めさせていただくことになりました。

今後、日本は更なる高齢化社会に進むことが予測されます。実際、日常診療の中で患者さんの平均年齢が上昇傾向にあると実感します。高齢の患者さんを診療している中で、ご家族から「認知症でしょうか？」といった相談を受ける機会も増えているように思います。ご家族が気づかないうちに、診療中に『認知症』が見つかるケースも存在します。認知症は、患者さんやご家族の生活に大きな影響を与える要素であり、介入が遅れた場合、十分な治療効果が得られず、長期にわたりご家族が途方に暮れる可能性も高まります。しかし、一言で『認知症診療』と表現しても、認知症にはいくつかの型があり、専門医でないと正確な診断にいきつかないケースも存在します。当院では、火曜日・水曜日に神経内科医師（非常勤）に診療をお願いし、認知症の正確な診断、適切な治療につなげる努力を続けています。

もし、先生方の外来に、「最近、物忘れが激しくなった。」「以前に比べ、性格が変わった印象を持つ。」「生活が昼夜逆転しつつある。」といった患者さんが来院された際は、早期診断につなげるために、当院への紹介をお願いできればと考えます。今後ともよろしくお願ひします。
内科 森村 光貴

こんにちは。能登川病院「認知症ケアチーム」です。

高齢化による様々な問題、特に「認知症」に対しては、厚生労働省の「新オレンジプラン」（認知症施策推進総合戦略）にみられるように、社会全体が取り組むべき課題として捉えられています。「新オレンジプラン」の目標は、『できる限り住み慣れた地域のよい環境で、自分らしく暮らし続けることができる社会の実現』です。この目標実現のために「7つの柱」が掲げられていますが、その中に「医療・介護等が認知症の容態の変化に応じて適時・適切に切れ目なく提供されること」という一つの柱があります。これは認知症の病態変化のみならず、身体合併症がみられた場合にも、その状況に応じた対応が求められる、ということです。

当院は急性期病院として、様々な病態の患者様に医療・看護を提供しています。その中で、認知症を持った患者様のBPSD、入院による環境の変化や、手術・治療などのストレスによるせん妄発症等の対応に苦慮する場面も少なからずあります。

しかし、加速化する高齢化社会において、私たちはこの現実を避けて通ることはできません。そのような中、一般病院における認知症ケアの質の向上が強く求められる状況となっています。そこで看護部は、“日々の看護ケアを充実させるためには認知症への理解を深める必要がある”と、昨年看護師6名が「認知症ケア加算用件研修」を受講しました。また病院全体の取り組みとして、院外講師を招き、全職員対象に研修会を開催しました。そして本年4月、研修を受講した看護師が中心となり「認知症ケアチーム」を立ち上げるに至りました。「認知症ケアチーム」は、入院された患者様が、BPSDやせん妄を起こすことなく、落ち着いた環境で治療を受けられ、治療が終了すれば、その方本来の生活の場に戻られることを支えるチームです。その内容は、「長谷川式簡易認知スケール」を用いたスクリーニングや看護計画・実施・評価についてのアドバイス、ケア方法等の情報発信、また医師、薬剤師、理学療法士等と連携し、専門的なアドバイスを受け、スタッフヘフィードバックするというチーム活動です。

活動を始めたばかりで、まだまだ課題が多いのですが、今後、定期的なケーススタディやラウンドの実施、院内研修等に取り組み、病院全体の認知症ケアを充実させる要の役割を果たしていきたいと思ひます。

昨年度まで週3日のみ実施しておりました健康診断は、今年度より月曜日から金曜日の5日間となりました。ご都合のよい日にお受けいただけます。

お問い合わせ・お申込みは、お電話またはご来院にて受け付けております。お気軽にご連絡ください。《健診室》Tel 0748-42-1333(代表)

糖尿病・内分泌内科へご紹介いただく場合は、事前にご予約をお願いします。



東近江市立 能登川病院(指定管理者 医療法人社団昂会)
地域医療連携室